

能楽公演
mu-shō-on

まだ、能を知らないあなたを誘いたい。
全曲徹底した解説を聞いて、体感する能

第二回

无聲の世

むしようおん

見えぬ。聞こえぬ。

でも、たしかに「ある」世界

大濠公園能楽堂

2023 11.18 土 14:00~16:00
開場 13:00

一般 3,500 円 全席自由・当日 4,000 円
学生 1,000 円

御殿を覆う黒雲。帝、御悩ナリ。怪しノ物ヲ退治セヨ。

第1部

型の基本とは 抽象的・基本の型を体感。

仕舞

熊野 久貫弘能

舞のいろはの「い」。能の基本の型が凝縮されています。平家が都を落ちる直前の、滅びを予兆させる、はかなくも華やかな最後の花見の宴。

舞&囃子

盤渉楽

武田伊左

大鼓 白坂保行 太鼓 吉谷 潔
小鼓 田邊恭資 笛 相原一彦

「无聲音」発足公演では、「天鼓」をお楽しみいただきました。天鼓が舞う器楽曲を抽出し、前回と同じ演者が基奏として舞います。謡なしの器楽曲演奏だけで舞う形式は本来ありませんが、新しい能公演の形になるかと思われれます。



第2部

仕方話 物語の説明を具体的な型で。

仕舞

殺生石 柏山聡子

絶世の美女の姿となり、権力の中心人物に寄り添い国を乱してきた妖狐。天竺・唐を荒し、ついに日本を狙い鳥羽院の近づくりますが、正体を暴かれ、那須野の原にて退治されます。その熱心は石となって、今も近づくものの命をとるのだとか。



我が子のために命を賭して海に潜り、龍宮にとられた秘宝の玉を奪還する海人の母の深い愛を描く玉取伝説 抽象的な能の演技のなかでは、最も写実的といわれる場面です。
「(〇)之段」といわれる、舞と謡の「ころ」が能全体で20箇所程あります。その中でも有名なものが、「この「玉之段」」。能海人の前半にある場面です。



第3部

能「鶴」を観る ポイントを押さえて観る！

あらすじ

[平家物語巻四]

近衛院が御在位であった壬午の頃、夜半夜半三条の東の森から黒雲が湧き、やがて御殿の上を覆います。帝は苦しまれ憔悴されておられました。貴僧高僧の祈禱も効き目がなく、武士に殺害をせよしかず立てがありません。源平の武士の中から選ばれた源頼政は雲の中に怪しい影を見つめ、矢を放ちます。手元あり、落ちたところを頼政の郎党が留めをさしました。その正体は、頭は猿尾は蛇、足は虎、鳴く声は鶴に似ているという怪物でした。頼政は和歌を詠み、名剣「獅子王」を賜り、文武に名を揚げました。鶴はうつろひ舟をくり抜いた舟に昇せられて、雲い流川を流されていくのです。

仕舞

鶴 石黒実都



半能

能では旅の僧が怪しい旅に出会います。頼政に退治された鶴の亡魂だと名乗る男み、消えていきます(前半)。後半では鶴の亡魂が、頼政に射られうづほ舟で流された有様を仕方話で演じます。



シテ 久貫弘能

ワキ 大目方寛

大鼓 白坂保行 太鼓 吉谷 潔
小鼓 田邊恭資 笛 相原一彦

後見 武田孝史
東川光夫

地謡 武田伊左 山岡晴美
葛野りさ 石黒実都
内田朝陽 柏山聡子

無聲音を聴く便りとなり、能「山姥」の一節です。かの白隠禪師も「隻手音声」の公案に到達するためにこの一節を引用しています。「無はないのではなく、いっぱいにつまったものである」これも恩師の言葉です。無=无 転じて夢ともなり、しょう=照または show とも 音=on 無から有の間を遊ぶこととして、公演の名称としました。

無聲音公演では
◎一曲ごとの解説
◎充実したパンフレット
能の楽しみを提案します。

お問い合わせ チケットお申し込み
エムアンドエム 092-751-8257
大濠公園能楽堂 092-715-2155
風聲水音 fusei_suion@icloud.com



Instagram 無聲音 ホームページ
fusei_suion musyoon.com